



平成 28 年 5 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 U M N フ ァ ー マ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 平 野 達 義
(コード番号：4585 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取 締 役 財 務 部 長 橋 本 裕 之
電 話 0 4 5 - 5 9 5 - 9 8 4 0

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2019年12月期を最終年度とする中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上



証券コード：4585

中期経営計画 2016—2019

2016年5月25日



Addressing Unmet Medical Needs

株式会社UMNファーマ



＜当社グループのミッション＞

革新的なワクチンを提供することにより、世界の人々の健康に貢献し、
ワクチン分野のニューリーダー、新しい変革者となる

成長目標

- 2019年度営業利益40億円は、UMN-0502国内及び米国Flublok®原薬輸出事業の通過点
- 両事業におけるピーク時営業利益80億円以上を実現
- 上記事業に加え、既存自社開発パイプライン事業化、新規シーズ拡充により更なる成長を実現

ビジネス戦略

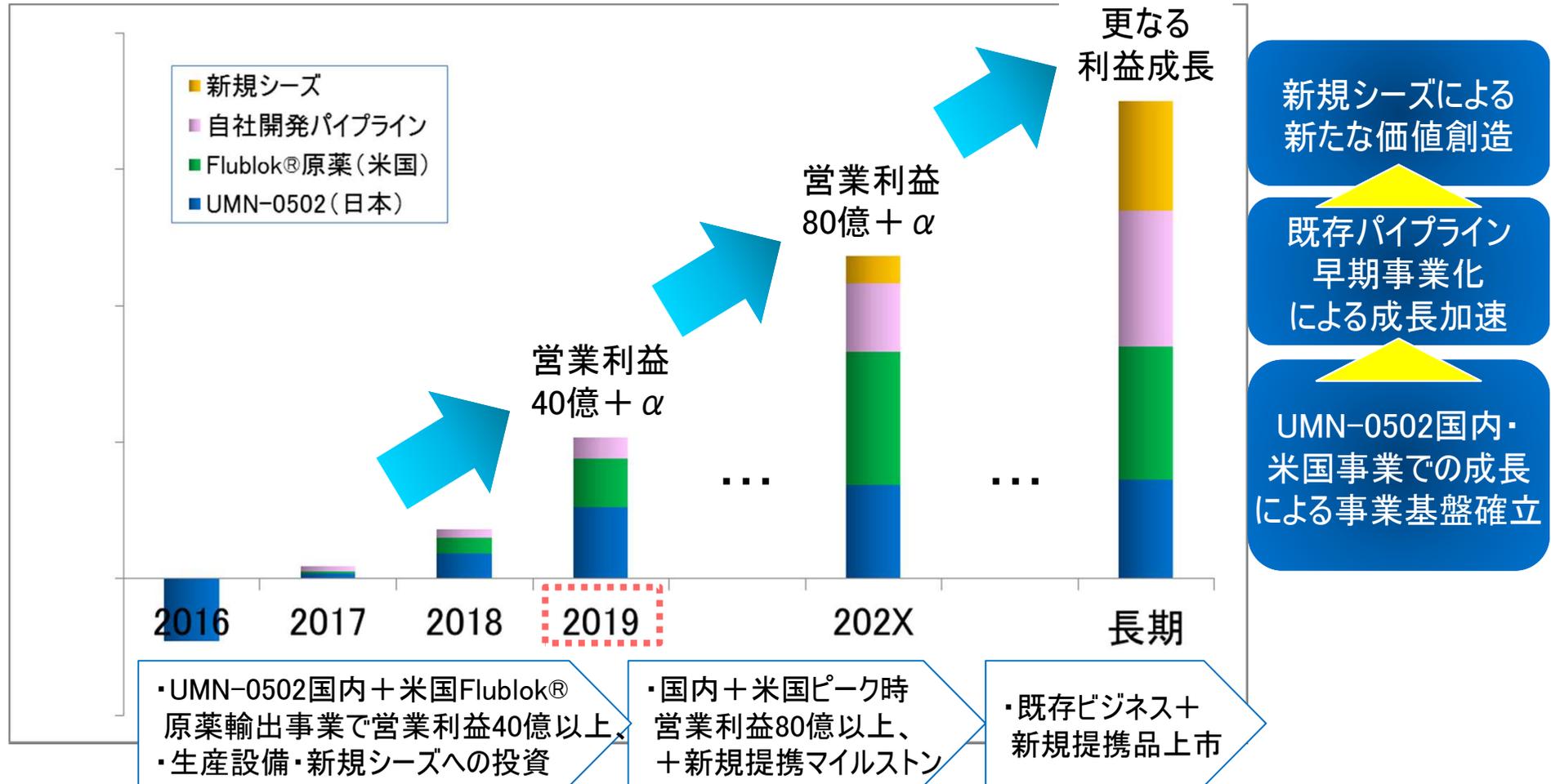
- PSCとともにインフルエンザワクチンにおけるカテゴリーリーダーとなり、長期的な安定収益を確保
- UMN-2002の早期提携・事業化により、収益基盤を拡大
- 当社製造プラットフォームBEVSを軸とした新規シーズの取り込み、新たな技術基盤へのアプローチによるワクチン分野におけるカテゴリーリーダーへの飛躍

当社グループの成長シナリオ

- 国内におけるUMN-0502を中心とする収益基盤の確立、米国Flublok®原薬輸出事業による収益拡大
- UMN-2002の提携実現による収益上乘せ、新規シーズにより長期的成長を実現



2020年度以降、更なる利益成長を実現



中期経営計画 2016-2019 アクションプラン



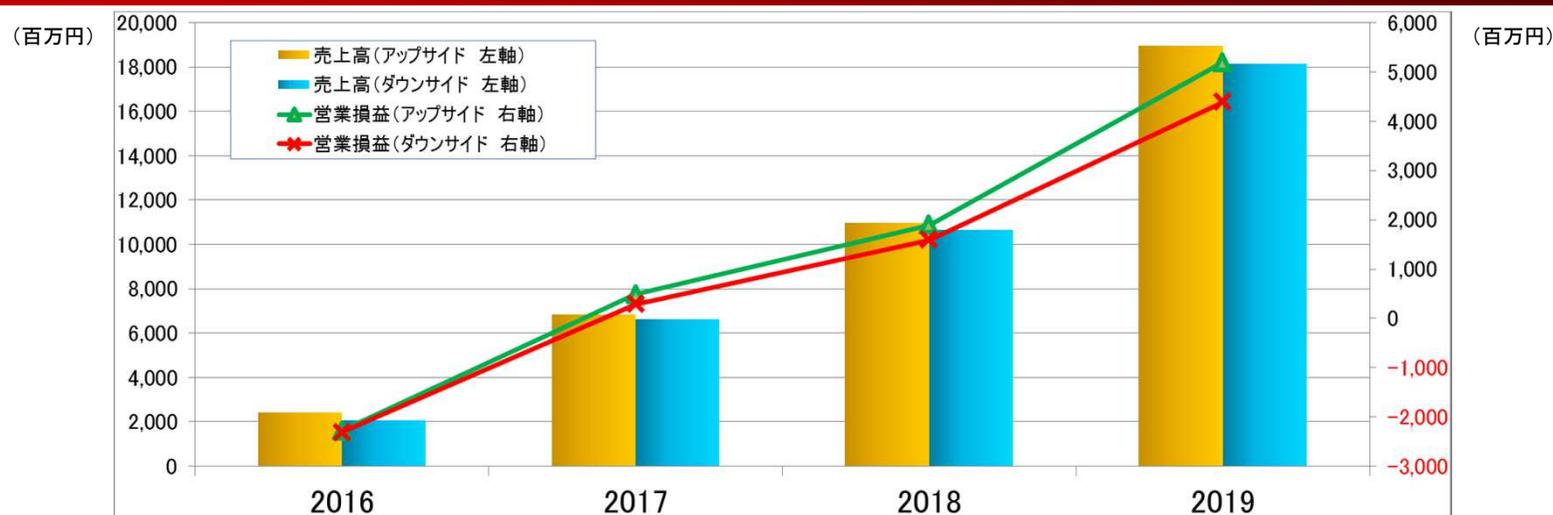
- 事業収益確保・拡大に向けた既存事業強化及び新規地域への展開

中期経営計画期間アクションプラン 2016-2019

自社開発品	UMN-0502	<p>国内</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2017年度以降における本格生産開始 ➤ 供給量拡大を見据えた岐阜工場生産能力の増強 ➤ UMN-0502原価改善・生産収量向上プロジェクトの遂行 ➤ 20歳未満への拡大可能性の検討 <p>海外展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 2017年度からの米国Flublok®原薬輸出開始 ➤ 韓国市場における臨床開発の確実な遂行、2018年度からの原薬輸出開始
	UMN-0501	
	UMN-0901	
	UMN-2003/ 2002	
バイオ医薬品 原薬供給製造		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 既受託案件の提携案件化、新規シーズ・新技術導入による自社開発パイプラインの拡充
人材育成		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 商用生産移行後に求められるマネジメント人材の採用及び育成 ➤ 海外事業を推進するグローバル人材の採用及び育成
経営基盤		<ul style="list-style-type: none"> ➤ グローバル展開を前提とする経営基盤強化 ➤ ディスクロージャー体制拡充

中期経営計画 2016～2019 連結損益計画

- 米国向けFlublok®原薬輸出事業の伸長により、成長遅れをカバー
- 中計最終年度である2019年度に営業利益40億以上、他プロジェクト提携による利益上乘せを目指す



連結ベース (百万円)	2016 通期予想	2017 中計	2018 中計	2019 中計
売上高	2,044～2,428	6,632～6,832	10,661～10,961	18,157～18,957
営業損益	△2,315～△2,282	287～487	1,595～1,895	4,391～5,191
経常損益	△2,608～△2,575	174～374	1,475～1,775	4,333～5,133
当期純損益	△2,366～△2,332	144～344	1,328～1,628	3,683～4,363

< 中計をレンジで公表する理由 >

- 現時点では、協議中のUMN-0502販売予測想定シナリオ及び米国向けFlublok®原薬供給予測想定シナリオをもって当社が独自に予測した売上高を見積ることとして中計数値としております。
- また、UMN-0502製品売上及びFlublok®原薬売上以外の収益については提携実現の是非により、売上・利益が大きく変動することから、レンジをもって中計数値としております。
- 今後、上記数値に変更がある場合、速やかに公表いたします。

中期経営計画 2016－2019 の前提条件 1/3
 ー 各年度連結売上高の策定根拠等



		ポイント	想定シナリオ
自社開発品	製品収益	<ul style="list-style-type: none"> 想定マーケティングシナリオをベースに、売上計画を策定 	<p>日本： アステラス製薬株式会社と当社による協議状況及び想定されるシナリオを基に、当社が数量及び価格を予測して算出しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量ベースでの市場推移・現時点で想定される価格 定期接種化時期、20歳未満への適応拡大可能性 競合製品等の上市時期 <p>海外： 2017年度より米国へのFlublok®原薬輸出を開始、2018年度より韓国への原薬輸出することを前提として、数量を予測して算出しております。 (留意事項) 今後、アステラス製薬株式会社、PSCとの協議の過程において、今回の予測数値に大きな変動が生じた場合は速やかに開示いたします。</p>
	開発・販売マイルストーン収益	<ul style="list-style-type: none"> 主に国内におけるUMN-0502に関する販売マイルストーンを計上 アップサイドでは、UMN-2002に関する提携一時金及びマイルストーンを加味 	<p>日本： アステラス製薬との提携契約に基づき、開発及び販売マイルストーン・ペイメント収益計上時期を予測して算定しております。</p> <p>海外： 韓国については、日東製薬との基本合意に基づき、開発マイルストーン・ペイメント収益の計上時期を予測して算定しております。 なお、米国については、原薬供給を主な事業としているためマイルストーン・ペイメント収益の収受は計画しておりません。</p> <p>UMN-2002： アップサイドケースにおいて、提携地域を考慮して一時金及びマイルストーン・ペイメントの収益計上時期を予測し、算定しております。</p>
バイオ医薬品原薬供給事業		<ul style="list-style-type: none"> 主に現在受託済の受託案件を計上 	<p>現時点で確定している受託案件について、開発段階にあるバイオ後続品の初期検討用原薬、治験薬の供給、並びに各種評価試験の受託収益を合理的に見積り、計上しております。</p>



ポイント	詳細
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">売上原価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 米国Flublok®原薬輸出事業拡大により、原価率は改善 ・ 各生産株の収量を考慮 	<p>製品収益に係る製造原価(岐阜工場) 原薬製造原価 想定出荷数量を基に各生産株の収量を考慮し、岐阜工場における直接及び間接原材料費を見積り、水道光熱費、人件費、減価償却費、設備維持費、その他固定費等を見積り、計上しております。 (留意事項)生産するウイルス株により収量が異なるため、株変更があった場合、大きく原薬製造原価が異なる可能性があります。</p> <p>アピ株式会社への製剤化業務委託費 バイアルへの充填、包装工程の外部委託に係る委託費を見積り、計上しております。</p> <p>UMN-05シリーズに関する提携・開発及び販売マイルストーン・ペイメント収益に係る支払ロイヤリティ PSCとの契約に基づき、上記開発パイプラインに関する提携・開発マイルストーン・ペイメント収益に対して、一定料率のロイヤリティの支払額を見積り、計上しております。</p> <p>バイオ医薬品受託製造事業に係る原価 秋田工場等における直接及び間接原材料費、水道光熱費、人件費、減価償却費、設備維持費、その他固定費等を見積り、計上しております。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">試験研究費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2017年度は一時的に減少するが、既存パイプライン、新規シーズへは積極投資 	<p>研究開発計画に基づき、米国Flublok®原薬輸出事業に係る申請用試験製造費用、国内審査対応費用、生産効率改善を目的とする試験製造費用、及び各開発パイプラインの開発費用に係る費用を計上しております。各開発パイプラインの販売開始以降、順次製造原価として、売上原価に振り替えております。その他研究開発に係る人件費、水道光熱費、消耗品費、設備維持費等を見込んでおります。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">その他管理費</p>	<p>横浜本社、秋田工場及び岐阜工場における管理費用を見込んでおります。 2017年度以降は、岐阜工場本格生産開始に伴う管理費用増を見込んでおります。</p>



	ポイント	詳細
営業外損益	<ul style="list-style-type: none"> 支払利息は、シンジケートローン（ランシエA及びランシエB）返済により負担減に 	<p>営業外収益 2017年度まで、岐阜工場固定資産税に係る奨励金を見積り、補助金収入として計上しております。</p> <p>営業外費用 岐阜工場建設資金に充当するためシンジケートローンを組成し、借入を行っております。また、当該シンジケートローンに係るIHI及びアステラス製薬に対する債務保証に係る信用保証料を計上しております。 季節性インフルエンザワクチンの生産時期及び売上計上時期を考慮し、期中の運転資金について借入対応する可能性を考慮し、利息負担額を見積り、計上しております。借入に係る支払利息及び信用保証料以外に特筆すべき費用は計上しておりません。</p>
設備投資計画	<ul style="list-style-type: none"> 岐阜工場生産能力増強を想定 	<p>2016年度以降において、岐阜工場生産能力拡大に係る追加設備投資を計画しております。</p>
資金計画	<ul style="list-style-type: none"> シンジケートローン返済及び利益計上開始による財務状況改善 	<p>2015年度4Qより、シンジケートローン（ランシエA）長期借入金の返済を開始している一方、ランシエB借入増により運転資金・設備資金に対応しております。 2017年度以降黒字化及び利益成長に伴うフリーキャッシュフロー増により、財務状況の改善を図ってまいります。</p>
留意事項	<p>➤ 当社の実際の業績等につきましては、販売数量・価格、原材料コスト、生産効率、自社開発パイプラインの開発進捗、審査状況、提携交渉状況、競合状況等により、またバイオ医薬品原薬供給事業においては受注状況など様々な要因により、業績予想と大きく異なる可能性があります。</p>	

将来見通しに関する注意事項



- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking Statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。